

# わがし職人になるまで

5年 説明文 22番

名前

谷口さんは、和菓子の職人です。けれど、子どものころから和菓子が好きだったわけではありません。高校生のとき、友だちとよく入っていたのは洋菓子店で、生クリームやチョコレートを使ったケーキばかり見ていました。和菓子と聞くと、色も形も地味で、あまり心が動かないものだと思っていました。

高校を卒業するとき、近所の和菓子屋が「見習いをさがしている」と聞きました。とくにやりたい仕事があったわけではなく、家から近いことと、給料がもらえることが理由で、あまり深く考えずに働き始めました。

はじめの一年は、あんをこねる、小豆をこねる、道具をあらう。そういう作業の毎日でした。細かい作業は苦手で、形をととのえる練習では、何度も同じ和菓子を作りなおしました。おもしろさを感じられず、やめようかと思ったことも、一度や二度ではありません。

気持ちが変わったのは、二年目の秋でした。店で、もみじの形をした練り切り（あんをねって作る和菓子）を出したときのことです。買いにきたお年よりが、その和菓子をじっと見つめて、しばらくだまっていました。それから、小さな声で「ふるさとの山を思い出しました」と言いました。

谷口さんは、その言葉におどろきました。自分が形をととのえただけの、手のひらにのる小さな和菓子が、その人の記憶や気持ちを、そこまで動かしたからです。あと、生地と、少しの色。それだけのものに、そんな力があるとは思っていませんでした。

それから、和菓子の見方が変わりました。季節の花や風景を、どうすれば形と色で表せるか。食べる人が、どんな気持ちになるか。谷口さんは、そう考えながら、毎年、新しい季節の和菓子を考えるようになりました。

わたしは、仕事のおもしろさは、始める前から決まっていたとは限らないと感じました。

（１）谷口さんが和菓子屋で働き始めたころに感じていたことを、文章の言葉を使って二つ書きましょう。

（２）谷口さんの気持ちが変わるきっかけとなったのは、どのような出来事でしたか。最も適切なものを一つ選びましょう。ア 洋菓子店でのアルバイトをやめたこと

イ 新しい道具を買ってもらったこと

ウ もみじの形の和菓子を見て、お客さんが感動したこと

エ 和菓子屋の店を継ぐように言われたこと

（３）お客さんが、もみじの形の和菓子を見て言った言葉を、文章からそのまま書きぬきましょう。

（４）次のうち、筆者の考え（意見）が述べられている一文を一つ選びましょう。

ア 谷口さんは、その言葉におどろきました。

イ わたしは、仕事のおもしろさは、始める前から決まっていたとは限らないと感じました。

ウ 谷口さんは、毎年、新しい季節の和菓子を考えるようになりました。

エ 谷口さんは、和菓子の職人です。

（５）谷口さんは、今、和菓子を作るときにどんなことを考えていますか。四十字以上六十字以内で書きましょう。

（６）あなたにも、谷口さんのように「後から気づくおもしろさ」がありそうなことがありますか。理由をつけて書きましょう。

## 書き方のヒント

「わたしは、あまり気が進まないと感じているのは、です。」の形で書き始めよう。

理由には、自分の経験や、これまでにあった出来事を入れる。

# わがし職人になるまで

解答

5年 説明文 22番

名前

谷口さんは、和菓子の職人です。けれど、子どものころから和菓子が好きだったわけではありません。高校生のとき、友だちとよく入っていたのは洋菓子店で、生クリームやチョコレートを使ったケーキばかり見ていました。和菓子と聞くと、色も形も地味で、あまり心が動かないものだと思っていました。

高校を卒業するとき、近所の和菓子屋が「見習いをさがしている」と聞きました。とくにやりたい仕事があったわけではなく、家から近いことと、給料がもらえることが理由で、あまり深く考えずに働き始めました。

はじめの一年は、あんをこねる、小豆をこねる、道具をあらう。そういう作業の毎日でした。細かい作業は苦手で、形をととのえる練習では、何度も同じ和菓子を作りなおしました。おもしろさを感じられず、やめようかと思ったことも、一度や二度ではありません。

気持ちが変わったのは、二年目の秋でした。店で、もみじの形をした練り切り（あんをねって作る和菓子）を出したときのことです。買いにきたお年よりが、その和菓子をじっと見つめて、しばらくだまっていました。それから、小さな声で「ふるさとの山を思い出しました」と言いました。

谷口さんは、その言葉におどろきました。自分が形をととのえただけの、手のひらにのる小さな和菓子が、その人の記憶や気持ちを、そこまで動かしたからです。あと、生地と、少しの色。それだけのものに、そんな力があるとは思っていませんでした。

それから、和菓子の見方が変わりました。季節の花や風景を、どうすれば形と色で表せるか。食べる人が、どんな気持ちになるか。谷口さんは、そう考えながら、毎年、新しい季節の和菓子を考えるようになりました。

わたしは、仕事のおもしろさは、始める前から決まっていたとは限らないと感じました。

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません

(1) 谷口さんが和菓子屋で働き始めたころに感じていたことを、文章の言葉を使って二つ書きましょう。

(例) 和菓子は色も形も地味で、あまり心が動かないと思っていたこと／細かい作業が苦手で、おもしろさを感じられなかったこと。

(2) 谷口さんの気持ちが変わるきっかけとなったのは、どのような出来事でしたか。最も適切なものを一つ選びましょう。ア 洋菓子店でのアルバイトをやめたこと

イ 新しい道具を買ってもらったこと

ウ もみじの形の和菓子を見て、お客さんが感動したこと

エ 和菓子屋の店を継ぐように言われたこと

(3) お客さんが、もみじの形の和菓子を見て言った言葉を、文章からそのまま書きぬきましょう。

ふるさとの山を思い出しました

(4) 次のうち、筆者の考え(意見)が述べられている一文を一つ選びましょう。

ア 谷口さんは、その言葉におどろきました。

イ わたしは、仕事のおもしろさは、始める前から決まっていたとは限らないと感じました。

ウ 谷口さんは、毎年、新しい季節の和菓子を考えるようになりました。

エ 谷口さんは、和菓子の職人です。

(5) 谷口さんは、今、和菓子を作るときにどんなことを考えていますか。四十字以上六十字以内で書きましょう。

(例) 季節の花や風景を、どうすれば形と色で表せるか、食べる人がどんな気持ちになるかを考えている。

(6) あなたにも、谷口さんのように「後から気づくおもしろさ」がありそうなことはありますか。理由をつけて書きましょう。

(例) わたしは、漢字の書き取りがあまり好きではありません。けれど、ていねいに書いた字をノートに見返すと、少しうれしい気持ちになることがあります。谷口さんのように、続けるうちに感じ方が変わることがあるのかもしれない。

## 書き方のヒント

「わたしは、あまり気が進まないと感じているのは、です。」の形で書き始めよう。

理由には、自分の経験や、これまでにあった出来事を入れる。

## 解答・解説 わがし職人になるまで（5年・説明文）

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。School Stock の書き下ろしで、実際にあった取材ではありません。仕事の中身は、厚生労働省の職業情報提供サイト（job tag）などの公的な資料で確かめてから書いています。子どもに紹介するときは、実在の人の話ではないことを一言そえてください。

**問1 （例）和菓子は色も形も地味で、あまり心が動かないと思っていたこと／細かい作業が苦手で、おもしろさを感じられなかったこと。**

第一段落と第三段落に、それぞれ書かれています。二つとも書けていれば正かいです。

**問2 ウ**

第四段落に「気持ちが変わったのは、二年目の秋でした」とあり、その出来事が書かれています。

**問3 ふるさとの山を思い出しました**

第四段落の、お客さんの言葉をそのまま書きぬきます。

**問4 イ**

文末が「～と感じました」となっており、筆者の意見です。ア・ウ・エは谷口さんについての事実です。

**問5 （例）季節の花や風景を、どうすれば形と色で表せるか、食べる人がどんな気持ちになるかを考えている。**

第六段落がまとめです。「季節をどう表すか」「食べる人の気持ち」の二点が入っていれば正かいです。四十～六十字を目安にします。

**問6 （例）わたしは、漢字の書き取りがあまり好きではありません。けれど、ていねいに書けた字をノートに見返すと、少しうれしい気持ちになることがあります。谷口さんのように、続けるうちに感じ方が変わることがあるのかもしれない。**

答えは自由です。自分の経験を理由として書けているかを見ます。「後から気づくおもしろさ」の意味を自分の言葉で言いかえられていれば正かいです。